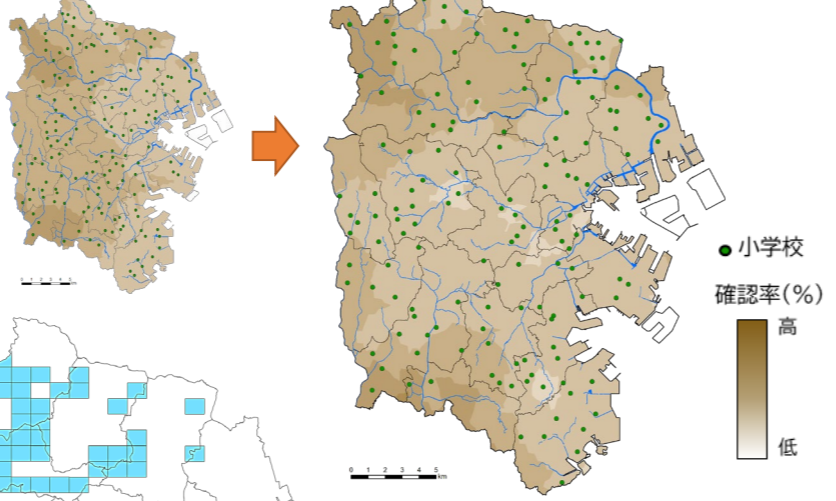


里地里山の代表種 アマガエル減少？

「こどもいきいき」生き物調査では、2014年、2018年にアマガエルを調べたところ、確認率は42%でしたが、今回2022年は37%と大きく減少しました。

アマガエルは田んぼなどの止水域(池など)の水の流れが弱いところを産卵に利用するため、確認率が高い地域は田んぼの多い北西部と南西部に集中しています。アマガエル

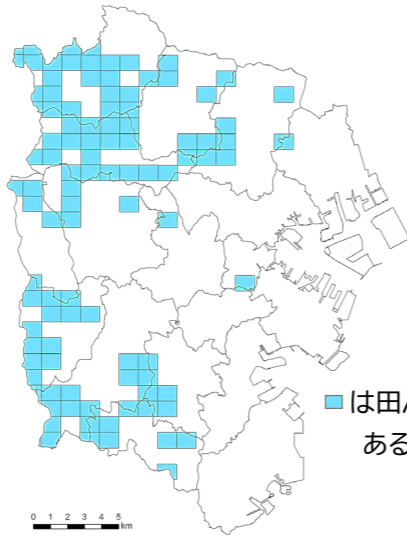
2018年・42% → 2022年・37%



「コロナ禍」影響の可能性も

他に、クヌギやコナラなどの樹液をエサとするノコギリクワガタ、土手などでよくみられるつくしも里地里山を代表する生き物ですが、いずれも今回の調査で確認率が大きく減少しました。「コロナ禍」によって、稲作体験の機会が減るなど、こどもたちの自然との関わり

「里地里山とは」人が生活のために手を入れた自然と、人々の生活の場が合わさった地域。田んぼや畑、ため池、雑木林、牧地などをさします。これらの環境を好む生き物の生息地としても重要です。



▲目の横の黒い線が特徴のアマガエル(戸塚区にて)

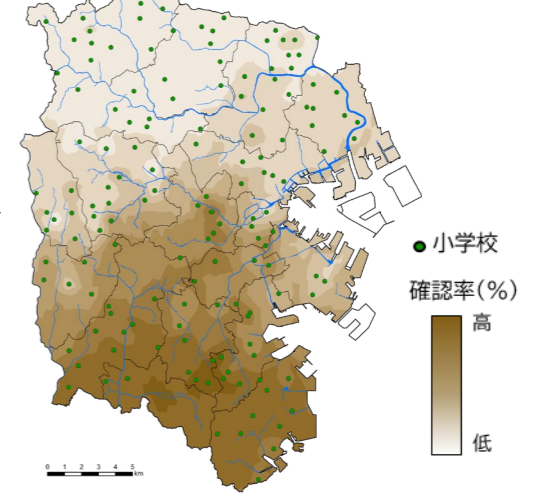
「確認率」は単なる生き物の生息密度ではなく、観察場所へのアクセスのしやすさや、生き物への関心度などによって変化します。

リス 南部を中心に確認

分布拡大はいち段落か

「こどもいきいき」生き物調査の結果、リスの確認情報は横浜市南部に多いことがわかりました。もともと市内にリスは生息しておらず、調査で確認されたのは、全て特定外来生物のクリハラリス(タイワンリス)とみられます。

2022年・41%



この調査では2013年、2016年、2019年にもリスを調べており、結果からは南部に多く、北部にはとも少ない状態が読み取れました。また、確認率(調査に参加した人数に対する確認した人数の割合)は増えており、確認される

範囲も広がっています。一方、前回2019年と今回2022年の結果はほとんど同じでした。横浜市環境科学研究所の担当者によると、「横浜市の北部を流れる大きな河川が、リスの生息拡大を制限しているのかもしれない」とのことです。



▲ペットなどとして輸入されたリスがにげ出したりして広まった(戸塚区にて)

2013年・35% → 2016年・38% → 2019年・42%



調査結果 数字は調査年・確認率(%)

感謝状

貴校はこども「いきいき」生き物調査2022に参加され横浜市の生き物生息情報の収集に尽力されました。よってここに深く感謝の意を表します。

- 【鶴見区】 旭・上寺尾・岸谷・駒岡・獅子ヶ谷・下野谷・末吉・鶴見・豊岡
- 【神奈川区】 神奈川・神橋・神大寺・斎藤分・菅田の丘・二谷・三ツ沢
- 【西区】 東・一本松・西前・平沼・宮谷・みなとみらい本町
- 【中区】 大鳥・本町・本牧・間門
- 【南区】 永田・中村・日枝・藤の木・六つ川西
- 【港南区】 港南台第一・港南台第二・小坪・桜岡・下野庭・芹が谷南・日限山・丸山台
- 【保土ヶ谷区】 岩崎・坂本・桜台・常盤台・星川・保土ヶ谷
- 【旭区】 今宿南・上川井・上白根・川井・希望ヶ丘・さちが丘・善部・鶴ヶ峰・中尾・中沢・東希望が丘・不動丸・本宿
- 【磯子区】 さわの里・山王台・杉田・根岸・浜・屏風浦・洋光台第一・洋光台第二・洋光台第三・洋光台第四
- 【金沢区】 金沢・釜利谷・小田・瀬ヶ崎・富岡・並木第一・並木第四
- 【南区】 能見台南・西金沢義務教育学校
- 【港北区】 大曾根・北綱島・港北・駒林・篠原西・下田・高田東・綱島・綱島東・新田・新羽・日吉台・日吉南・大豆戸・箕輪・師岡・矢上
- 【緑区】 いぶき野・上山・長津田第二・中山・東本郷・緑・三保・森の台・山下・霧が丘義務教育学校
- 【青葉区】 青葉台・あざみ野第一・あざみ野第二・美しが丘東・往田西・榎が丘・恩田・鴨志田第一・鴨志田緑・嶮山・さつきが丘・奈良・もえぎ野・元石川・山内
- 【都筑区】 牛久保・往田・折本・勝田・川和東・都田西・中川・東山田・南山田
- 【戸塚区】 柏台・沢沢・小雀・境木・大正・戸塚・鳥が丘・東戸塚・東保野・横浜深谷
- 【南区】 南戸塚・南舞岡・矢部
- 【泉区】 飯島・小菅ヶ谷・庄戸・千秀
- 【瀬谷区】 飯田北いちよう・和泉・上飯田・新橋・東中田・緑園義務教育学校
- 【瀬谷区】 瀬谷さくら・瀬谷第二・大門・原・二つ橋・三ツ境・南瀬谷

広告

みなさまに支えられ 10周年!!

2022年は159校、10,552人が参加してくださいました!

参加者数の~10万人突破!!

まだまだやります!

「こどもいきいき」生き物調査

1 ペットとしてアメリカからつれて来られたけどすまらねえ... 水たけどすまらねえ...

2 やめてよ!

3 お腹がへってつい食べてしまったの

4 非礼! 話だね

がんばれ エコぼん

横浜市環境行動キャラクター「エコぼん」

こども「いきいき」生き物調査



Q こども「いきいき」生き物調査ってなに？

A 横浜市立小学校の5年生を中心に、1年間に家や学校の近くで見つけた生き物を報告してもらって調査です。

Q 結果はどうやってまとめたの？

A 生き物ごと・学校ごとに見つけた割合(確認率)を求め、地図上に色の濃さで確認率の高低が分かるように表しました。※1

Q いつからやっているの？

A 2013年からはじめ、今年で10年目、9回目を迎えました。※2

Q どんな生き物を調査しているの？

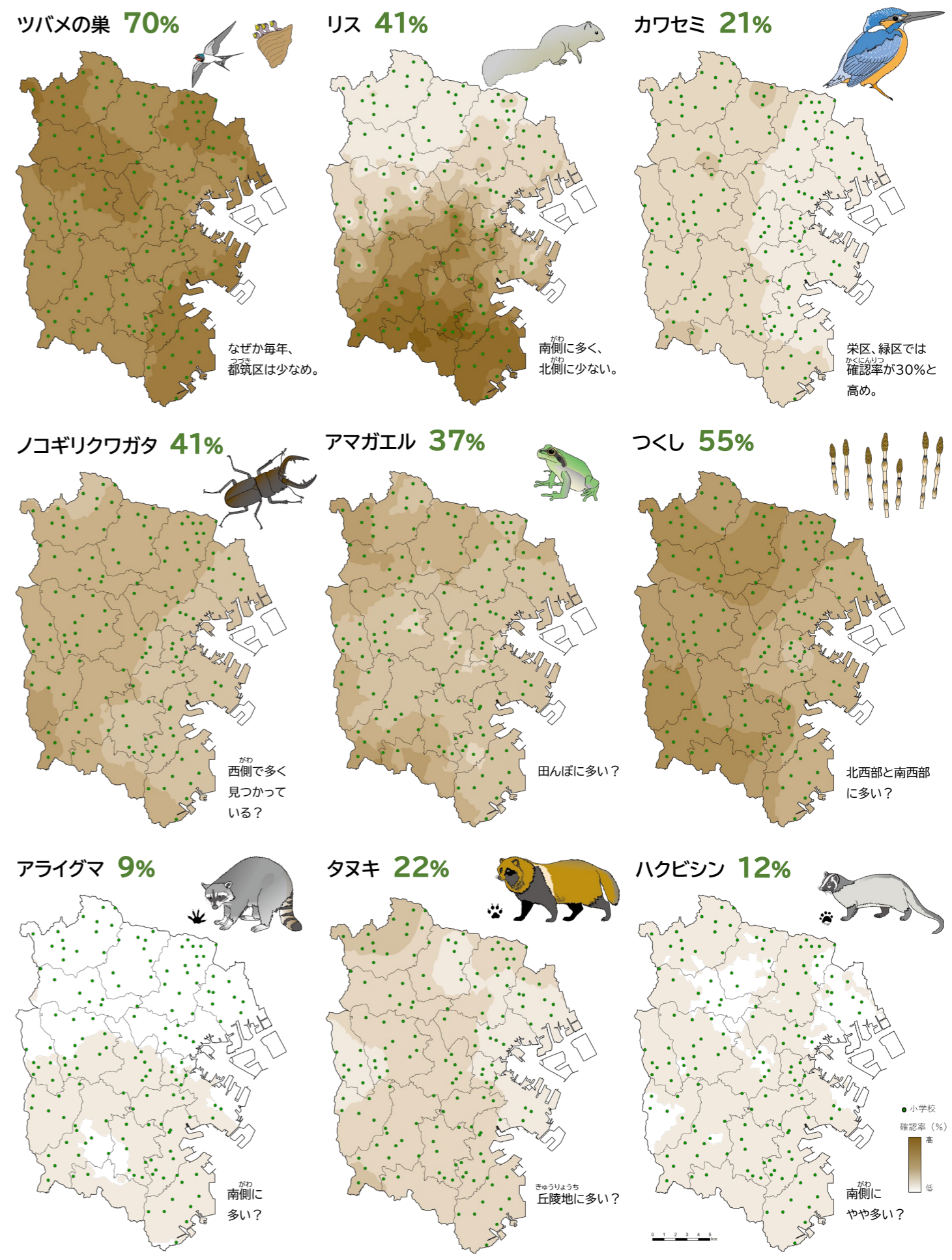
A 見分けるのがかんたんで、分布にかたよりのあるものや、増えたり減ったりしそうな生き物から、毎年選んでいます。

Q なんで調査するの？

A 横浜市内の生き物の生息情報を広く集めるためと、子どもたちに地域の自然や生き物に関心を高めてもらうためです。

※1 作図には1校あたりの回答数が10人以上の150校のデータを使用し、GISソフトを用いたKriging法により、空間補間を行いました。学校ごとの確認率は観察場所へのアクセスのしやすさなど、さまざまな要因により変動し、必ずしも生き物の生息密度を表すものではありません。
 ※2 2020年は新型コロナウイルス感染拡大を受けて調査を実施しませんでした。

2022年の調査結果 ※数字(%)は市全体の確認率を示しています。

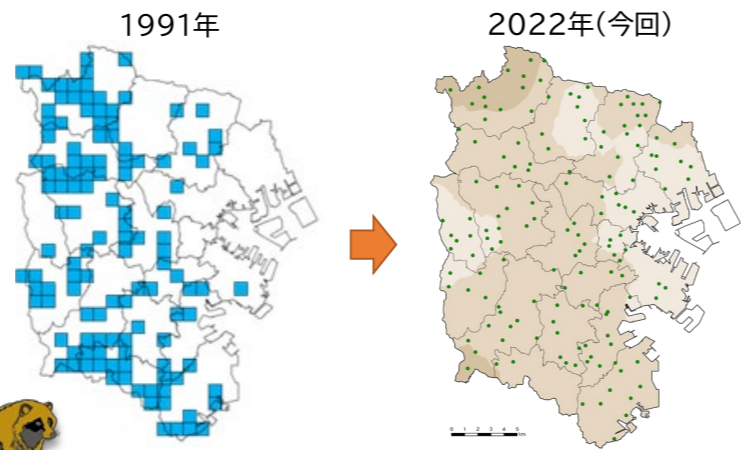


注) 色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作図したものです。一部のふ頭などは解析対象外としました。



40年前にも…

横浜市では1984～1991年にも、当時の小中学生、高校生を対象に、アンケートによる生き物調査を行いました。1km四方あたりに1つでも確認情報があれば色を付ける示し方など、現在の調査とは異なる点もありますが、当時の状況を知る貴重な資料であり、報告書で比較を行っています。



例) タヌキの調査結果



結果の詳細は、報告書として横浜市環境科学研究所Webページに掲載しています。(二次元バーコードからもアクセスできます→)

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/tavosei/ikiiki.html>

